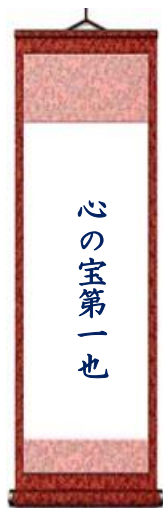


幸せの条件

心の宝第一也



幸せの条件とは、「経済の安定（お金）」と、「健康で長生き」と思います。現に新聞・雑誌にも「金運を呼ぶ財布」「お金に好かれる法則」はたまた、「長寿の為の食品」等々。では、日蓮聖人はどの様に説かれているのでしょうか。

＊蔵の財（即ち、経済の事です。）
 持妙法華問答鈔に云く。

「生涯幾何ならず、思へば一夜の飯の宿を忘れて幾何の名利をか得ん。又、得たりとも是れ夢中の栄へ珍しからぬ楽しみ也。前世の業因に任せて営むべし」
 現代釈



人生とはそう長くはない、ただ一夜の飯の宿である事を忘れて、どれほどの財産を得たからと言って、それは夢の中の栄へであるに過ぎない。夢物語である。入るものは入って来る、入らないものは入らない、自分の前世で決まっている、前世でどれだけ徳を積んだかで決まる、宝くじで大金を手にする人は前世で徳を積んだ人である。しかし、今財が入って無くても、いつかは又、前世の業因があるので入る時には入って来るが、慾を以て自分の器以上の物を求めれば全て無くす事になります、自身が前世の業因を信じられるかどうかなのです。」

＊身の宝（即ち、健康や身体に備わる才能・社会的地位や名誉又は家族に付いて）

四條金吾殿御返事に云く。
 「いかにいとをし、離れじと思ふ妻なれども、死しぬれば甲斐無し。」

現代釈
 死しぬれば甲斐無し。いかに愛おしい、離れまいと思ふ妻なれども、死んでしまえばどうにもならない
 持妙法華問答鈔に云く。



「只須く汝仏にならんと思はば慢のはたほこをたをし、忿りの杖をすてて偏に一乗に帰すべし、名聞名利は今生のかざり」
 現代釈

世間に聞こえる名誉や評判又は利慾や利得は今生の飾りである。（蔵の財も身の宝も今生限りのもので、寿命が尽きればそこに置いていかなければなりません。）

＊最後に心の宝です。（御本尊を信じ、日蓮聖人を通じた本門の題目、これを唱え弘宣流布していく姿。）
 阿佛房御書に云く。

「法華経の題目宝塔なり、宝塔又南無妙法蓮華経也 今阿仏上人の一身は地水火風空の五大なり、此五大は題目の五字也 然れば阿仏房さながら宝塔、宝塔さながら阿仏房 聞・信・戒・定・進・捨・慚の七宝を以てかざりたる宝塔也」

わがみまたさんじんそくいち ほんがく によらい
 我身又三身即一の本覚の如来なり

かく信じ給て南無妙法蓮華経と唱え給え」
 現代釈

南無妙法蓮華経と唱える私たちには七宝と言つて七つの宝物によって飾られているのです。七宝とは、とてもとても、高価な宝石を云います。しかし、日蓮聖人の云はれている七宝とは、物質的な財宝（蔵の財・身の宝）ではなく、「聞・信・戒・定・進・捨・慚」の事、これこそが「心の宝」なのです。

一、聞とは、正法を聞く。二、信とは、わだかまりのない澄んだ心で信じる。三、戒とは、滅悪勧善（悪を滅して善を勧める）四、定とは、禅定、心を不動にして定める。五、進とは、精進、懈怠の心や退転なく真つ直ぐ道を進む。六、捨とは、執着の心を捨てる。七、慚とは、慚愧、自らの過ちを反省して、心に深く恥じること。
 「お母さんである久遠本佛が赤ちゃんにお乳のお題目を与えます。赤ちゃんは、このお乳の栄養分や成分がどうかと一切疑うこと無く、唯無心にこのお乳を飲む事です。」
 南無妙法蓮華経



大阪府八尾市服部川933 天龍山一の谷 安國寺

電話 (0729)41-8201

http://www.eonet.ne.jp/~renshou-douju/index.html
 パワースポット「一塔合安 妙宗大靈廟」検索お願い

(本化妙宗 安國寺 知恩報恩推進委員会)